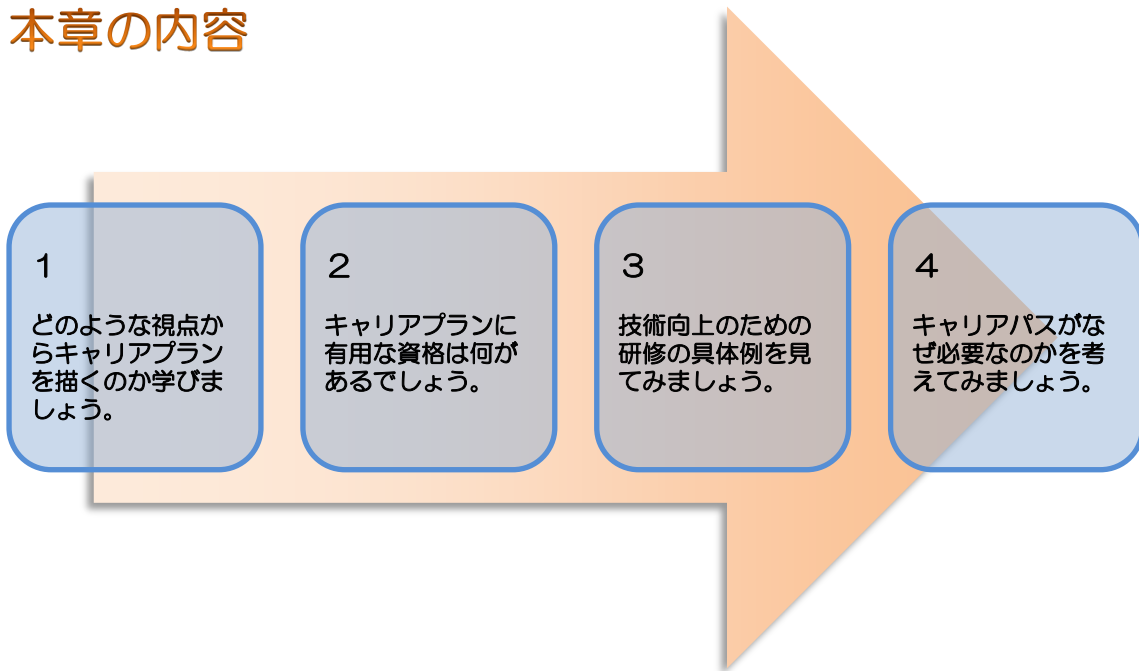


## 第三章 障害種別・職種ごとのキャリアプラン

### 本章の内容



### 本章の概要

キャリアとは、「生涯を通じた職業人生経路」「時間軸で見た職業生活のパターン」と言われています。障害福祉サービス等の現場に就労した動機や目的、目指しているものを確認することで、これからの職業人としての意義や求められるものが明確になっていきます。

キャリアプランは初任者から中堅職員、チームリーダー、管理者となるにつれて変わってきます。また、それぞれの法人・事業所から求められるものも違ってくるでしょう。そこで、キャリアプランの必要性を学びながら実際に現場で取り組んでいる職員のキャリア紹介とキャリアプランについて見てみましょう。

## 1 キャリアプランの意義と必要性

### (1) 自分自身の就職したきっかけを考えてみましょう

みなさんは、現在の職に就く前にさまざまな人生経験をされています。家庭や学校で、多様な価値観を育んできたことでしょう。

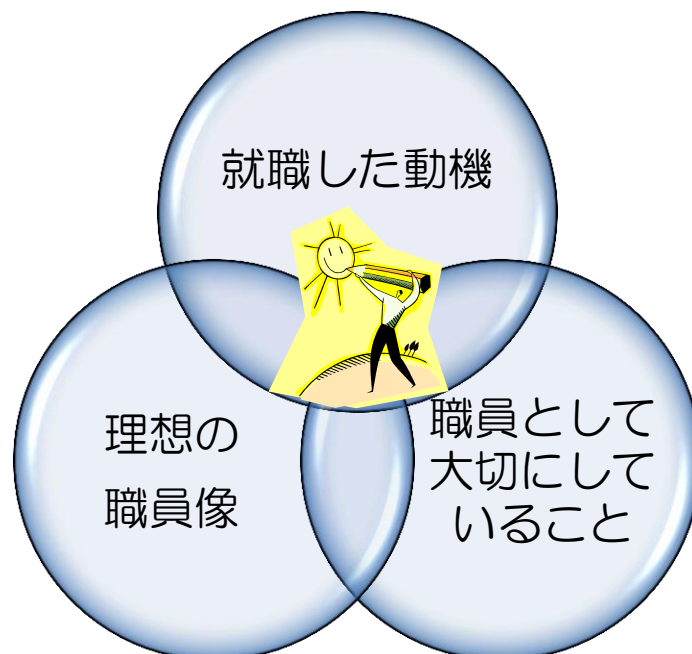
志望した動機は、それぞれ思いがあると思います。「生きていくためにこの仕事を選んだ」「周囲がこの仕事を勧めてくれたから」など動機もさまざまです。

しかし、この仕事を選んだことは、もっと強い志のようなものがきっとあったはずで、障害福祉サービス等従事者を志す人は、次のような就労働機をもつ人が多いといわれています。

- 働きたいのある仕事だと思ったから
- 人や社会の役に立ちたいから
- 今後もニーズが高まる仕事だから
- 人とかかわることが好きだから
- 資格や技能を生かせる仕事だから
- 自分に適している仕事だから
- 福祉や介護の知識・技能が身につくから
- 自分の成長につながるから

### (2) キャリアプランとは

キャリアプランとは、「自分が就職した思いやきっかけは何か」「どのような福祉職員になりたいのか」「福祉職員として大切にしていることや目指したいことは何か」などを明確にして、その実現のためのビジョンを描くことです（図3-1）。



【図3-1 キャリアプランとは】

### (3) 自分のキャリアプランを明確にする

自身のキャリアプランを考えるにあたってはまず、これまでのキャリアを振り返りながら、自己イメージを明確にすることが大切です。例えば、「利用者から信頼される職員」を目指すのであれば、今の自分にできることを整理して、「これから目指すべきこと」を見つけてキャリアプランに反映させることが大切です。

### (4) キャリアデザイン 4つの問い

#### ■今自分ができることは何でしょう

学校や家庭での生活をふりかえってみましょう。そこで得た知識や経験など、たくさんあると思います。自分が専門とするところ、得意なところなどをピックアップすることが大切です。そして、自分の性格や周囲から思われているイメージなどを分析しながら、持ち味を考えてみるとよいでしょう。

#### ■自分のやりたいことは何でしょう

みなさんが、今の仕事に就きたいと思った動機は、いろいろあると思います。その動機は、はっきりとしたものではないかもしれませんが。たとえば、「利用者に喜んでもらいたい」「人のために働きたい」「子どもの頃から好きな仕事だった」といったものがあるのではないのでしょうか。そのような思いを整理してみるとよいでしょう。

#### ■仕事をしていて感じることは何ですか

なぜこの仕事を選んだのかを自分なりに振り返りつつ、今の仕事に対する感想を思い浮かべてみましょう。「これから需要のある分野なので頑張りたい」「やりがいのある仕事だと思う」「就職したけど、支援の方法が難しい」など色々な感想があると思います。そのような仕事に対しての思いを整理してみましょう。

#### ■仕事でどのような関係作りをしていきますか

仕事に就くと、職場内では上司・先輩・同僚がいます。そして、自分と同じ職種だけではなく、事務職の方もいれば、他の専門職の方もいます。職場の外を見れば、他機関の職員とも利用者の支援会議で関わりをもつこともあるでしょう。このような場面で自分がどういったところを配慮したらよいのかを整理してみましょう。

### (5) キャリアプランを描いてみよう。

キャリアプランは自身の2年後、3年後、5年後、10年後、さらにはもっと長い視点で職業人としてのイメージを描くことです。そこではいくつかの視点に基づいてイメージをかたち作ってみましょう。以下にキャリアプランを描くための記入表を掲載しています。作成例を参考に記入し、今の自分を見つめなおしてみましょう（資料1）。

(資料1)

自己プロフィールシート

|                                  |
|----------------------------------|
| <p>(障害福祉サービス等に就職した動機や思い)</p>     |
| <p>(障害福祉サービス等に従事して感じていること)</p>   |
| <p>(理想とする職業人)</p>                |
| <p>(障害福祉サービス等に従事して大切にしていること)</p> |
| <p>(現在の課題)</p>                   |

私のキャリアプランシート

| （めざしたい職業人の自己イメージ）    |                     |
|----------------------|---------------------|
| ①今自分にできることは何か        | ②自分のしたいことは何か        |
| ③仕事に対して何を感じているのか     | ④どのような関係作りをしていきたいのか |
| （ 年後の自分の職業人としてのイメージ） |                     |
| （重点目標）               |                     |
| （自分自身の能力開発や資格取得について） |                     |

（引用）

「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程テキスト 初任者編」 社会福祉法人全国社会福祉協議会、2013年

【記入例】

自己プロフィールシート

|  |
|--|
| <p>(障害福祉サービス等に就職した動機や思い)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 小学校の頃、自分の祖母を介護するヘルパーを見て、福祉の分野に関心を持った。</li><li>• 中学校の職場体験学習で、高齢者の入所施設に行った。</li><li>• 高校生のとき、テレビで介護の現場の特集で、利用者の笑顔の為に働く職員の姿を見て、福祉の現場に憧れた。</li><li>• 就職活動を行う際、障害福祉サービスに関わってみたいと思い、現職場を志望した。</li></ul> |
| <p>(障害福祉サービス等に従事して感じていること)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 利用者が求める支援の要求が高く、自分自身の支援技術の向上の必要性を感じている。</li><li>• 制度上、実現することが難しい要求もあるため、対人折衝能力や説明能力も向上させる必要がある。</li></ul>   |
| <p>(理想とする職業人)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 入職した際、仕事を教えてくれた〇〇先輩は今も精力的に仕事をしており、憧れると共に目標としている。</li><li>• 自分の業務だけにとどまらず、気づいたことに対して率先して取り組める職員になりたいと思う。</li></ul>  |
| <p>(障害福祉サービス等に従事して大切にしていること)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 利用者が笑顔で答えてくれることが何よりもうれしいので、利用者のニーズを的確に把握できるよう、気を配っている。</li></ul>  |
| <p>(現在の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 支援の技術を向上させたい。</li><li>• 聞き上手、話し上手になりたい。</li><li>• 地域の社会資源等の情報について勉強して、支援に役立てたい。</li></ul>   |

## 私のキャリアプランシート

| （めざしたい職業人の自己イメージ）  |  |
|--|--|
| <p>①今自分にできることは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●元氣よくあいさつができる。</li> <li>●利用者の気持ちになって考えられる。</li> </ul>                                      | <p>②自分のしたいことは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●知識と実力を身につけ、事業所の管理者になる。</li> </ul>                          |
| <p>③仕事に対して何を感じているのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●思ったとおりにならず疲れることもあるが、充実感を感じることがとても多く、自分にとって理想の職だと思っている。</li> </ul>                      | <p>④どのような関係作りをしていきたいのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●職場の雰囲気大切に、後輩を牽引できるよう、職場内で良好な関係を構築していきたい。</li> </ul> |
| <p>（3年後の自分の職業人としてのイメージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●3年後はチームリーダーとして活躍したい。</li> <li>●利用者が喜び、かつ利用者のためになるレクリエーションを企画できるようになりたい。</li> </ul> |  |
| <p>（重点目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●介護技術や支援技術を上達させる。</li> <li>●対人折衝能力を向上させる。</li> <li>●他人に教えられだけの技術を身につける。</li> </ul>                |  |
| <p>（自分自身の能力開発や資格取得について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●通信教育で社会福祉士の勉強をはじめ。</li> <li>●コミュニケーション能力に関する本を買って勉強してみる。</li> </ul>                |  |

## 2 キャリアプランに沿って必須となる資格の提示 実務経験キャリアアップにつながる職種

### (1) 資格の取得条件と方法

#### ■サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者

サービス管理責任者等になるためには、次の①・②・③の全てを満たすことが必要です。

- ①障害者（児）支援に関する実務経験（所持している資格や支援内容に応じて、3年～10年）があること
- ②相談支援従事者研修（講義部分）を受講すること
- ③サービス管理責任者研修等を修了すること

新規に事業を開始する場合等は、②③の研修の受講について一定の経過措置が認められることもありますが、その際も①の実務経験については要件を満たしている必要があります。

#### ■社会福祉士

社会福祉士は、「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づく国家資格で、障害者等の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、関係者等との連絡調整を行います。

社会福祉士になるためには、社会福祉士国家試験に合格（卒業校、履修科目、実務経験、養成施設等や研修の受講の有無等による受験要件有り）した後に、公益財団法人社会福祉振興・試験センターに登録することが必要です。

#### ■介護福祉士

介護福祉士は、「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づく国家資格で、障害者等の介護等や介護に関する指導を行います。

介護福祉士になるためには、介護福祉士国家試験に合格（卒業校、履修科目、実務経験、養成施設等や研修の受講の有無等による受験要件有り）した後に、公益財団法人社会福祉振興・試験センターに登録することが必要です。

#### ■精神保健福祉士

精神保健福祉士は、「精神保健福祉士法」に基づく国家資格で、精神障害者等の社会復帰に関すること等について相談援助を行います。今後、精神障害者に対する地域での生活支援を重視していくという流れを受け、精神保健福祉士の役割・専門的機能が着目されています。

精神保健福祉士になるためには、精神保健福祉士国家試験に合格（卒業校、履修科目、実務経験、養成施設等や研修の受講の有無等による受験要件有り）した後に、公益財団法人社会福祉振興・試験センターに登録することが必要です。



## (2) それぞれの資格の概要とキャリアアップについて

福祉の従業者が仕事をする上で関わる資格が実際にどのような内容なのか、資格がキャリアアップにどうつながっているのかを具体的に見てみましょう。

【表3-1 キャリアアップにつながる職種】

| 資格      | 資格取得がキャリアアップに有用となる職種  |
|---------|---|
| 社会福祉士   | <p>「社会福祉士」は「専門的知識及び技術をもって、身体上もしくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連携及び調整その他の援助を行うことを業とする者」とされています（社会福祉士及び介護福祉士法第2条第1項）。</p> <p>日々の支援で気づいたことを専門的に分析・整理して、的確にサービス管理責任者等に伝えることは、個々の利用者に適切なサービスを提供する上で重要なことです。そのようなときに社会福祉士として学んだ障害者の特性、医学や心理学の知識が役立ちます。</p> <p>社会福祉士の資格取得は、障害福祉サービス等で支援員として働いている方のキャリアアップに有用です。</p>  |
| 介護福祉士   | <p>「介護福祉士」は「専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護（喀痰吸引その他のその者が日常生活を営むのに必要な行為であって、医師の指示の下に行われるもの（厚生労働省令で定めるものに限る）を含む。）を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とする者」とされています（社会福祉士及び介護福祉士法第2条第2項）。</p> <p>介護福祉士の具体的な業務は、食事・着替え・排泄・入浴・睡眠（体位交換）・レクリエーション等の基本的な生活全般を支援し、介護される方が快適に暮らせるよう援助する仕事です。実際に介護を行う際や、同僚や利用者の家族等に介護に必要となることを教える場合、介護福祉士として得た知識が役立ちます。</p> <p>介護福祉士の資格取得は、日々、介護を提供している方のキャリアアップに有用です。</p>   |
| 精神保健福祉士 | <p>「精神保健福祉士」は「精神障害者の保健及び福祉に関する専門的知識及び技術をもって、精神科病院その他の医療施設において精神障害の医療を受け、又は精神障害者の社会復帰の促進を図ることを目的とする施設を利用している者の地域相談支援の利用に関する相談その他の社会復帰に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行うことを業とする者」とされています（精神保健福祉士法第2条）。</p> <p>日常生活訓練をする事業所では、家事などの具体的な基本動作を一緒に行い、助言します。就労前訓練や作業を行う目的の施設では、作業を通して社会参加することを支援します。また就労前のトレーニングや、実際の就職活動に関する助言、職場への定着のための支援等を行います。例えば、障害福祉サービス等の精神障害者を対象とした事業所の支援員として働いていると、利用者から病状のこと、就労のことなどの相談を受けることがあります。そのようなときに精神保健福祉士のために学んだ知識が役立ちます。</p> <p>精神保健福祉士の資格取得は、精神障害を対象にした障害福祉サービス等に従事している方のキャリアアップに有用です。</p> |

|             |   |
|-------------|---|
| サービス管理責任者   | 「サービス管理責任者」は個別支援計画の作成やサービス提供プロセスの管理、他のサービス提供職員への技術指導や助言等を行います。<br>実務経験（3年～10年）、サービス管理責任者研修修了・相談支援従事者初任者研修（講義部分）修了の資格要件があり、サービス提供部門の指導的立場の職員を想定しています。      |
| 児童発達支援管理責任者 | 「児童発達支援管理責任者」は、個別支援計画の作成やサービス提供プロセスの管理、他のサービス提供職員への技術指導や助言等を行います。<br>実務経験（3年～10年）、児童発達支援管理責任者研修修了・相談支援従事者初任者研修（講義部分）修了の資格要件があり、サービス提供部門の指導的立場の職員を想定しています。 |
| 相談支援専門員     | 「相談支援専門員」は障害者等の相談に応じ、助言や連絡調整等の必要な支援を行うほか、サービスの利用支援、サービス等利用計画などの作成等を行います。<br>相談支援事業所には、必ず相談支援専門員の資格を取得している人が必要です。  |

### 3 技術向上に有効な研修の例示

福祉の従事者には、介護の技術だけではなく、円滑なコミュニケーションを行う能力等、様々な能力が求められます。こういった能力は、日常業務でも培われていくものですが、研修によって理論や技術を学べば、より効率よく能力を伸ばすことができます。ここでは、そういった研修の一例を紹介します。

#### （1）コミュニケーション研修（交流分析を用いた研修）

私たちは、日々の生活の中で必ず人と関わりを持ち、その対人関係の中で充実感や生きがい、喜びなどを感じ取っています。

同じ職場の職員や利用者と信頼関係を築くにあたっては、適切なコミュニケーションを行い、お互いを理解することが大切です。そのために、テーマとして取り上げたのが交流分析です。

交流分析は、自分自身を知ることにより、他者とのコミュニケーションを円滑に進めるための一手法を学ぶことを目的としています。

##### ■研修の課題項目の例

- ・交流分析とは何か
- ・あなたの基本的な対人関係のスタンスを分析してみよう
- ・「本音と建前の自分」と「自分らしい自分」を知ろう
- ・こころの働きについて
- ・人生態度とは

#### （2）接遇研修の一例

障害福祉サービス等は、利用者にサービスを提供する業務ですので、「接遇に関する研修」は非常に重要です。接遇能力の向上は、先に述べたコミュニケーションをより効果的に行うために必要であり、利用者の満足度の向上にも繋がります。

##### ■研修の課題項目の例

- ・接遇とは
- ・信頼関係を築く

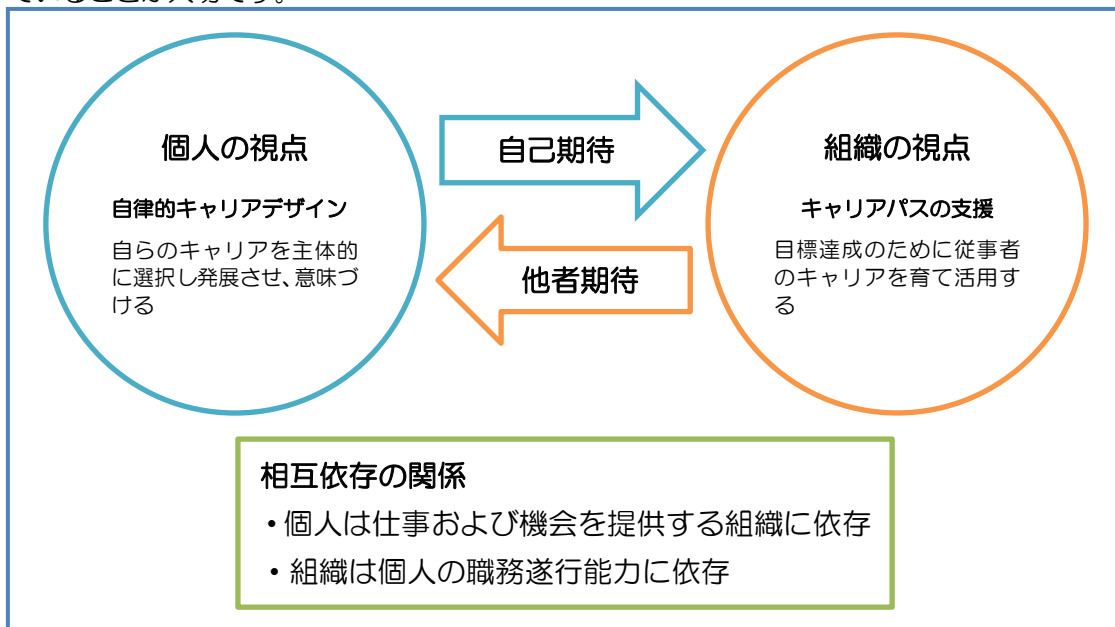
- 事例検討
- サービスの特性
- 心を伝えるテクニック

## 4 キャリアパスの考え方

キャリアとは「生涯を通じた職業人生経路」「時間軸で見た職業生活のパターン」を意味する言葉です。職員自身が主体的に自らの将来の目標を定めることがキャリアデザインです。

職員それぞれの目標に応じた、組織の中で職員として歩むべき進路・道筋をキャリアパスといいます。キャリアデザインもキャリアパスも、職員個人としての思いと、組織として職員に求めることの相互に作用して変化していくものです。

キャリアデザインを行うにあたっては、どのようにすれば自分が職業人として成長できるかを個人の視点と組織の視点の両方から考えていく必要があります。キャリアプランを考えるにあたっては、自分が抱いている将来の希望と、所属する組織が自分に期待することがお互いに協調していることが大切です。



【図3-2 組織におけるキャリアの考え方】

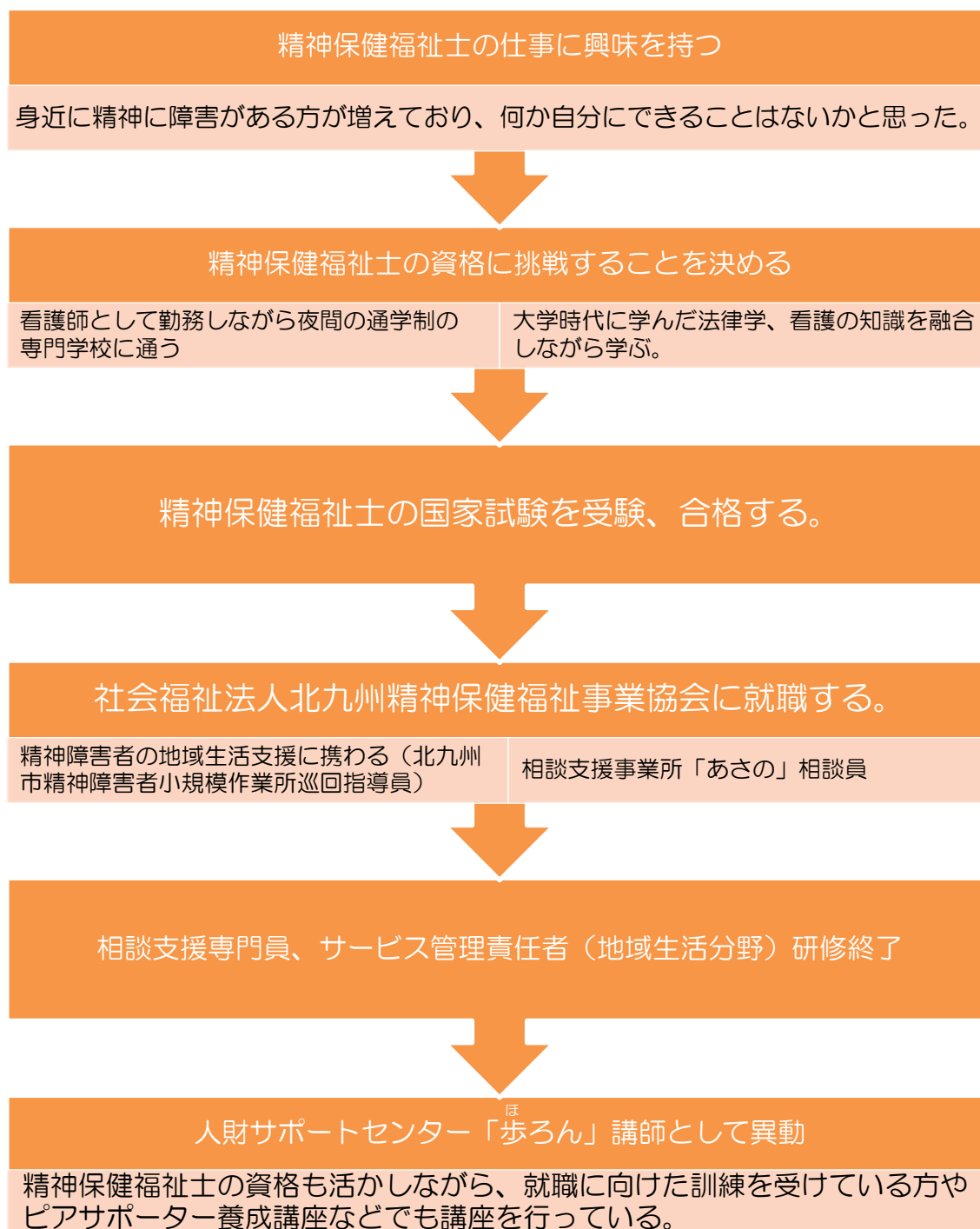
## 5 資格取得体験談とキャリア紹介・キャリアプラン

キャリアプランを描いていくためには、資格の取得、キャリアアップにつながる職種の経験や研修の受講が必要になることがあります。この項目では、実際に従事している方の資格取得体験談とキャリア紹介・キャリアプランについて紹介します。

H26.4

|  |  |                          |
|--|--|--------------------------|
| 所属   | 社会福祉法人北九州精神保健福祉事業協会<br>人財サポートセンター「歩ろん」 |                          |
| 役職・氏名  | 講師 竹本和広                                |                          |
| 職歴   | 平成21年                                  | 精神保健福祉士資格取得              |
|  | 平成21年                                  | 北九州市精神障害者小規模作業所巡回指導員（入職） |
|  | 平成24年                                  | 相談支援事業所「あさの」相談員          |
|  | 平成25年                                  | 人財サポートセンター「歩ろん」 職員研修事業講師 |
| <p>私は精神に障害のある方の支援をする前は市内の総合病院の脳神経外科、内科、呼吸器内科で看護師として勤務していました。私が精神保健福祉士を目指そうと思ったきっかけは身近に精神に障害のある方が増えており、自分も何かしら支援をしてみたいと思ったからです。</p> <p>精神保健福祉士のカリキュラムを見ると、精神医学や精神科リハビリテーション学、さらには法学や社会福祉論といった科目で、幅広い教養が求められているのだと感じました。大学時代は法律学を勉強していたので、勉強する上では、看護師の資格と融合でき、精神保健福祉士の資格が自分にとって身近に感じられたのも資格取得の動機につながったと思います。そして、福岡市内にある福祉の専門学校に通うことを決めました。当時、昼間は看護師として働きながら夜間の専門学校に通っていました。帰宅時間が夜の12時前になる生活でしたが、同じ境遇にある友人が専門学校におり、お互い励ましあっていたので、1年間続けることができたのだと思います。</p> <p>学習は授業を聞くので精一杯で予習・復習はなかなかできなかったように思います。科目も多く中には苦手な科目もあったので、まずは得意な科目から学習を進めていきました。受験の3か月前あたりに模擬試験を受けたり、過去問などを解いたりしました。勉強する時間は限られているので、移動中の電車の中や気分転換をかねてカフェなどで少しの時間を使いながら勉強しました。私は長時間勉強するのは苦手なので、短い時間を使って集中したのが良かったように思います。</p> <p>運良く1年間の学習で精神保健福祉士の国家試験に合格できました。合格できたのは興味をもちながら勉強できたこと、一緒に勉強した友人に恵まれたこと、苦手科目はありましたが最後まで諦めなかったことなどがあります。</p> <p>現在精神に障害のある方の支援を行っています。精神保健福祉士の資格を取得して精神障害者の方とのコミュニケーションの取り方などで役立っています。</p> |  |                          |

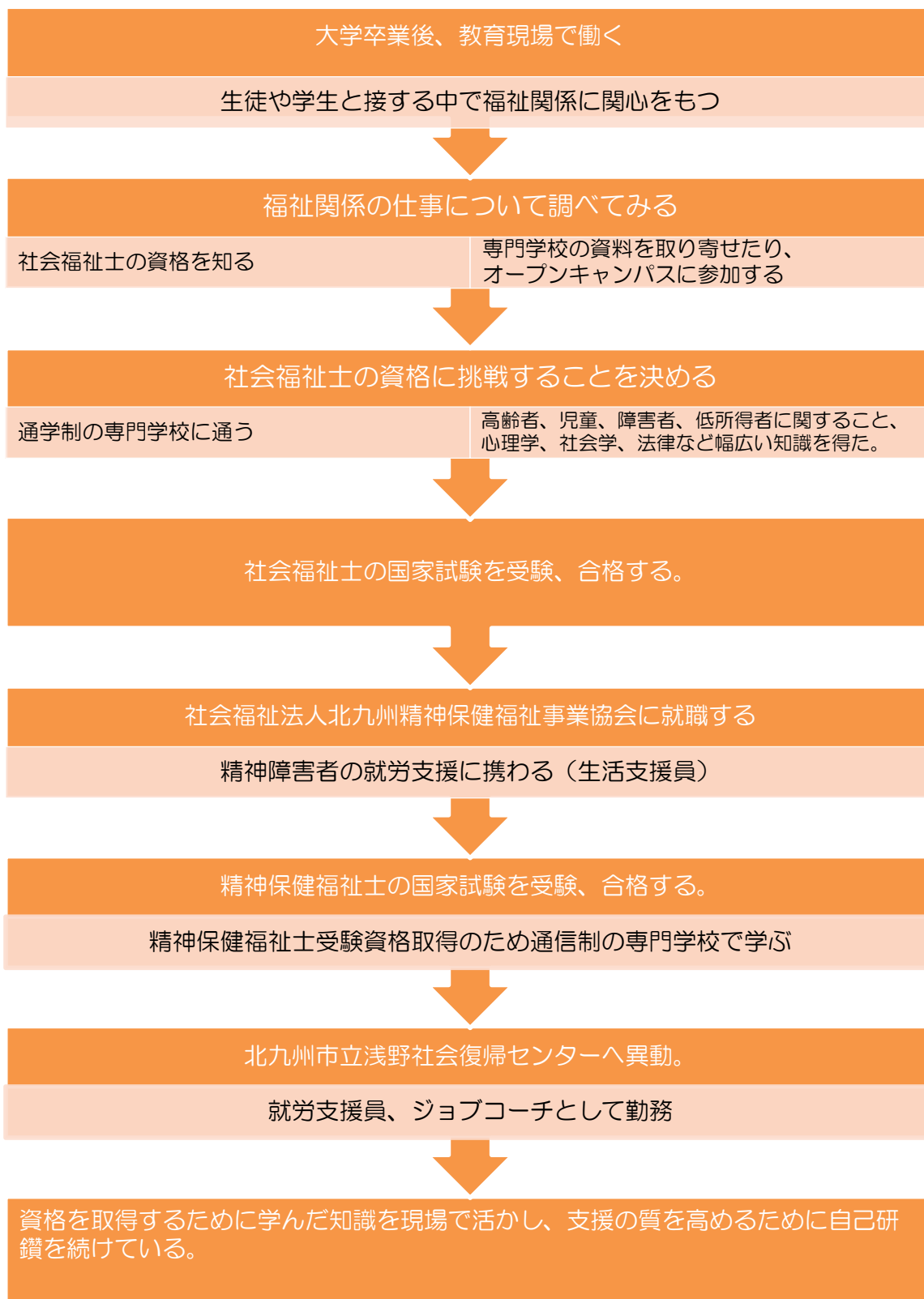
## ★竹本和広さんの資格取得までの道のり





|  |  |                        |
|--|--|------------------------|
| 所属   | 社会福祉法人北九州精神保健福祉事業協会<br>北九州市立浅野社会復帰センター |                        |
| 役職・氏名  | 就労支援員・ジョブコーチ 原 絵 里 子                   |                        |
| 職歴   | 平成 23 年                                | 社会福祉士資格取得              |
|  | 平成 23 年                                | ジョブサポートセンター黒崎生活支援員（入職） |
|  | 平成 25 年                                | 精神保健福祉士資格取得            |
|  | 平成 25 年                                | 浅野社会復帰センター就労支援員、ジョブコーチ |
| <p>私は大学の文学部を卒業後、教育関係の職場で働いていました。そこで生徒・学生に接する中で、家庭環境や心の病など様々な困難を抱える方が多いことを知り、福祉に関心を持つようになりました。しかし、私は一度も福祉について学んだことがなく、どうすれば福祉分野の仕事ができるのかその時は全く知りませんでした。</p> <p>色々と調べていくうちに社会福祉士という資格があることを知り、専門学校で資料を取り寄せたり、オープンキャンパスに参加したりしました。そして、福祉の世界で活躍するには資格取得が近道であると思い、社会福祉士を目指すことを決心しました。また、その時は「福祉」といっても具体的にどのような分野があるのかも漠然としていたため、幅広い知識を身に付けられるという点でも社会福祉士は魅力的でした。資格取得には通信制と通学制という方法がありましたが、私は福祉についての知識が全くなかったため通学制の方が安心・確実に学べると思い、そのコースがある福岡市の専門学校に入学しました。専門学校のカリキュラムは、高齢者や児童、障害者、低所得者に関すること、さらには心理学や社会学、法律など幅広い分野にわたっていました。科目が多く初めは戸惑いましたが、どれも現代の社会問題に通じる部分があり、興味深く学びました。さらに、専門学校の先生は実際に福祉の現場を経験された方ばかりで、その体験談を交えた授業を受けることで、自分の将来進みたい方向性もだんだん見えてきました。専門学校に入学した翌年 1 月には国家試験を受け、無事合格できました。そして、現在は精神に障害のある方の就労支援を行っています。就労支援は、授業や実習を経験するなかで最も興味を持っていた分野でした。「働く」ということは、お金だけでなく生きがいを得るためにも人生に欠かせないものであり、障害のために仕事に就くことが困難になっている方がいるなら、何か力になりたいと思ったからです。また、精神に障害のある方を主な対象とする施設で働く中で精神障害に関する知識をより一層深めることが必要だと感じるようになりました。入職 1 年後からは精神保健福祉士取得を目指し、9 ヶ月間通信制で学びました。仕事をしながらのレポート提出や試験勉強は大変でしたが、何とか合格することができました。</p> <p>現在、資格取得のために勉強したことを現場で日々実感し、役立てています。また、資格を持っていることで「資格手当」が付くため待遇面の向上にも繋がりました。今後、支援の質を高めるためもっと実践を重ね、日々勉強をしていきたいと思っています。</p> |  |                        |

## ★原絵里子さんの資格取得までの道のり

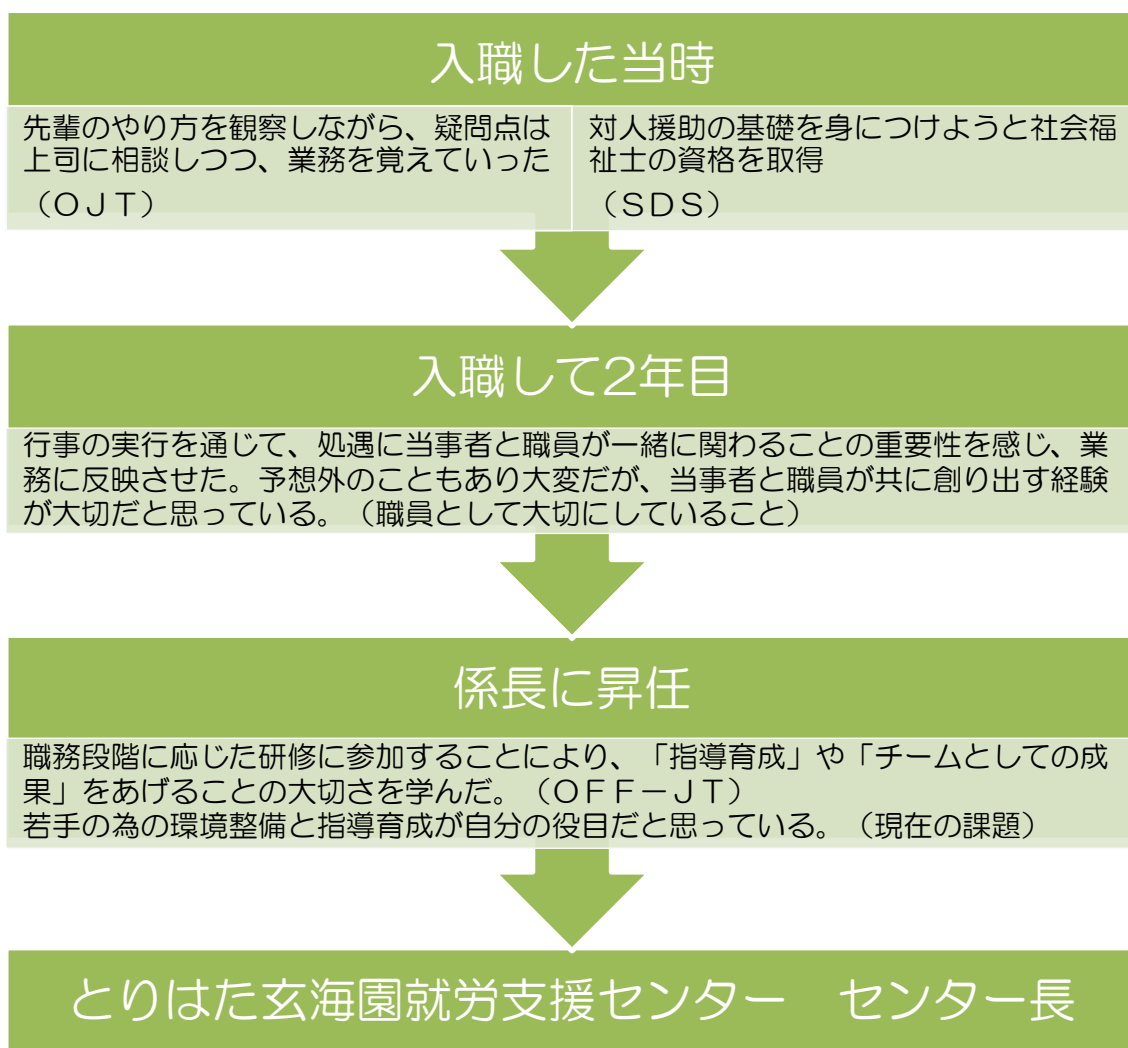


|  |                                       |                          |
|--|---------------------------------------|--------------------------|
| 所属   | 社会福祉法人北九州身体障害者福祉事業協会<br>とりはた玄海園就労センター |                          |
| 役職・氏名  | センター長 原 田 敦 子                         |                          |
| 職歴   | 平成 9 年                                | 玄海重度職業更生センター生活指導員（入職）    |
|  | 平成 15 年                               | 玄海授産場生活支援員               |
|  | 平成 17 年                               | 玄海授産場職業支援員               |
|  | 平成 20 年                               | とりはた玄海園就労支援センターサービス管理責任者 |
|  | 平成 23 年                               | 同サービス管理責任者主任             |
|  | 平成 25 年                               | 同サービス管理責任者係長             |
|  | 平成 26 年                               | 同センター長                   |
| <p>私が就職した頃は、まだまだのんびりとした雰囲気があり、温かい目で利用者も諸先輩も私の成長を見守ってくれるよい時代でした。ただ、当時はマニュアルもあまりなく、学生時代に学んだ知識や前職の経験を総動員し、先輩職員のやり方を観察しながら業務を覚えたものでした。見よう見まねだったこともあり、自分の対応が間違っていないかと不安になった時は必ず先輩や上司に相談し、また、対人援助の基礎を身につけようと社会福祉士の資格取得にも挑戦しました。</p> <p>入職して二年目に行事の企画が採用され、初めてのことに苦労もありましたが、利用者だけでなく職員も含めた関わる人すべてがワクワクできる、笑顔あふれる活動こそが求められているのだと気づかされました。その体験から、現在はすべての行事で必ず利用者が実行委員として関わっています。時には想定外のプログラムも飛び出して予算もオーバーしそうになることもありますが、共に創りだす経験を大切にしながら取り組むようにしています。</p> <p>現在は、サービス管理責任者として利用者の支援に関わりながら、係長として施設経営の総括補佐にも携わっています。組織人として働く専門家を育成する立場となり、その難しさを実感する毎日です。リーダーシップやコーチング関連の研修、業務改善研修・スーパービジョン研修などに参加し、「私の仕事」ではなく、「チームとしての成果」をあげることの大切さを学びました。今は、見よう見まねで業務を覚えた時代とは違い、即戦力が求められることが多くなっています。若手が不安なく仕事に取り組める環境を整えるとともに、専門職としてしっかり育成するのが今の私の大切な役目となっています。</p> <p>法人の基本方針の中に「私たちは、誰でも、いつからでも成長する可能性を信じ、将来への夢を持って、社会参加と自立の推進を目指します」という言葉があります。利用者だけでなく、職員も私自身も次のステップに成長できるよう、常に挑戦者として仕事に取り組んでいきたいと思っています。</p> |                                       |                          |



### ★原田敦子さんのキャリアプランについて

原田さんは平成9年に現在の法人に相談員として入職されました。その後、生活指導員や生活支援員として利用者の日中活動のサポートや職業支援員を行っていました。平成19年にサービス管理責任者の資格を取得して、法人の就労センターのサービス管理責任者になりました。平成23年4月に主任となり、平成25年4月に係長となりました。センター長となった現在は、若手を育てていくことの必要性を感じているそうです。

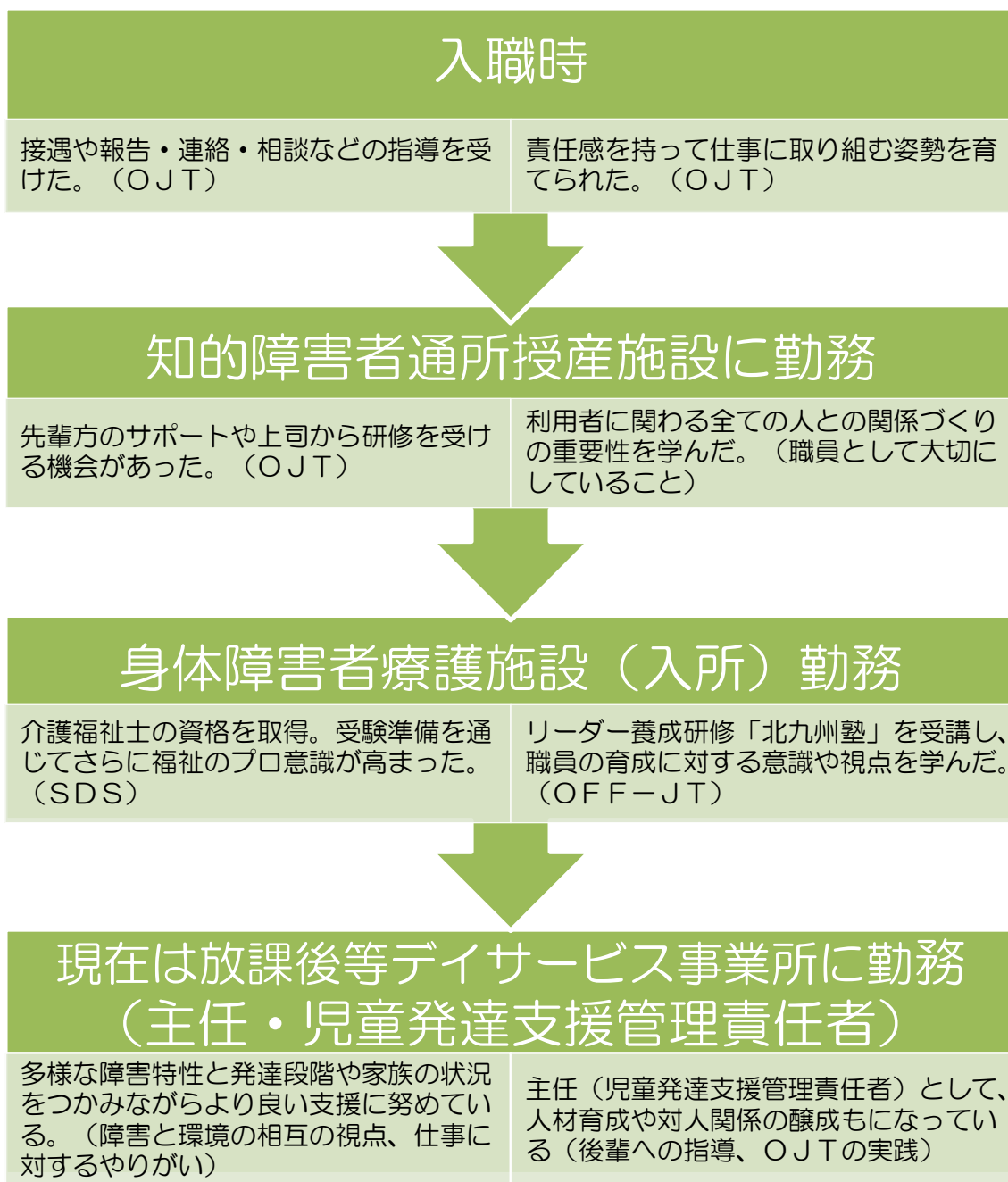


|  |                                       |   |
|--|---------------------------------------|---|
| 所属   | 社会福祉法人北九州あゆみの会<br>北九州市立小倉南障害者地域活動センター |   |
| 役職・氏名  | 主任・児童発達支援管理責任者 小 牧 堅 一 朗              |   |
| 職歴   | 平成11年<br>平成14年<br>平成22年<br>平成25年      | 知的障害者入所施設指導員（他法人）<br>北九州市立小倉南障害者地域活動センター就労支援員（入職）<br>介護福祉士の資格を取得<br>北九州市立小倉南障害者地域活動センター主任・児童発達支援管理責任者 |
| <p>幼い頃から保育士になりたいと夢みていた私。しかし、保育福祉専門学校在学中に障害者の方と関わる機会があった事から夢が変化した。施設の雰囲気と利用者の笑顔に魅力を感じ、利用者やご家族からの感謝の言葉に感動し、障害者福祉への道に進む事を決めた。</p> <p>就職して、14年目を迎える。その間、5つの異なる事業所を経験した。</p> <p>初めは、知的障害者入所授産施設に就職。利用者への接遇、報告・連絡・相談など色々な面で指導を受け、責任感を持って仕事に取り組む姿勢を育てられた。</p> <p>2年後に知的障害者通所授産施設に勤務（7年間）。様々な障害種・特性の利用者に出会い、信頼関係を築く事に悩んだ。が、先輩方のサポートや上司から研修を受ける機会をもらった事で、表情や行動から利用者の思いを受け止められるようになった。就労支援も担当したが、利用者に関わる全ての人との関係づくりの重要性を学んだ。この頃から町に買い物に出ても利用者が就職できる職場や実習先など、私生活の中でも利用者の事を常に考え、情報を集めるようとする自分がいた。</p> <p>その後、入所施設（旧療護施設）勤務時に介護福祉士の資格を取得した。受験準備を通じてさらに福祉のプロ意識が高まったように思う。また、入所施設経験3年目に北九州塾に参加し、様々なスキルを学び、職員の育成に対する意識や視点を学んだ。</p> <p>現在は、主任として放課後等デイサービス事業所で勤務している。利用者にとって家庭と学校以外の第3の生活の場。放課後の生活は余暇を過ごすなど将来の自分らしい生活を送る上で大切な学習の場と考える。多様な障害特性と発達段階や家族の状況を掴みながら良い支援に努め、やりがいを感じながら日々業務している。今、人材育成や対人関係の醸成など主任として担う中、北九州塾で学んだスキルを活かしている。</p> <p>これからも、自分のキャリアデザインを描きながら、経験や知識を積み、専門職としてのキャリアを培っていきたいと思う。</p> |                                       |   |

### ★小牧堅一朗さんのキャリアプランについて

小牧さんは平成11年に知的障害者の入所施設に指導員として入職されました。平成14年に現在の法人で生活支援員として就労支援を行っていました。入職して5年目あたりになってリーダーとしての役割を任されたと感じたとのことでした。

平成24年4月に現在勤務している放課後等デイサービス事業所に異動して主任となり、同年11月に児童発達支援管理責任者となりました。児童に関しては発達段階からの視点が重要になるので、学ぶことが多いとのことでした。



|  |                              |   |
|--|------------------------------|---|
| 所属   | 社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会<br>インクル大里 |   |
| 役職・氏名  | 事業所長 池田辰美                    |   |
| 職歴   | 平成5年                         | 北九州市手をつなぐ育成会北九州ひまわりの里に入職。<br>その後、主事となる。 |
|  | 平成18年                        | きく工芸舎分場KIT主事                            |
|  | 平成21年                        | 若松工芸舎グループリーダー                           |
|  | 平成23年                        | 八幡西障害者地域活動センター副事業所長                     |
|  | 平成24年                        | 北九州ひまわりの里副施設長                           |
|  | 平成25年                        | 大里東「あおぞら」（現在の事業所名：インクル大里）<br>事業所長       |
| <p>平成5年に北九州市手をつなぐ育成会に入職し、最初の配属先は当時の入所更生施設でした。そこで最初の12年間を勤務、その後8年間を通所施設4カ所で勤務しましたので、現職に至るまでの20年間、障害者支援の仕事に就いていることとなります。</p> <p>現在、私は生活介護事業所で事業所長の任にありますが、それまで現場の調整役として管理者をサポートする役割を長く経験していました。この時の半管理職的な役割は、利用者との関わりや職員からの相談窓口かつ管理者との中継役ともなり、色々な意味で複雑な業務でしたが、振り返ってみると得難い経験であったと思う事が少なからずありました。</p> <p>当時、次の世代の職員育成のため組織されたグループのメンバーとして、職員研修の企画担当という機会を与えられた事が、特に印象深く心に残っています。この時ほど「研修の意義とは」「職員が本当に育つとは」と考え抜いた経験は他にありません。他のメンバー達も研修の在り方や、研修の限界性への挑戦といった生みの苦しみを同時に共有していたであろうと思われます。</p> <p>自分の力量では研修の本質に近づくことも出来なかつたろうと思いますが、この時私達には、本当に大切な事には妥協を許さない指導者がおりました。「何のための研修か」と問われ続ける中で、人を育成する本質が理解できなければ結局半端な答えしか導き出せないのだ、と痛感しました。</p> <p>これまで、多様な研修へ参加させていただき心に残る研修も無いわけではありませんが、研修を企画する、という経験が何より現在の自分の仕事のあり様に影響していると感じています。なぜなら、人を育てるという事はただ技能や知識の伝授ではなく、職業人としての人間性を培っていく事ではないか、どのような研修も結局はそこに辿り着くのではないのか、という事にその時に気付いたからです。</p> <p>人の育成が身上となった今、私も妥協する事なく問いを投げかけていく職業人でありたいと切望しております。</p> |                              |   |

### ★池田辰美さんのキャリアプランについて

池田さんは平成5年に育成会に入職しました。北九州ひまわりの里で主事となり、若松工芸舎でグループリーダー、八幡西障害者地域活動センターで副事業所長、北九州ひまわりの里で副施設長、そして、大里東「あおぞら」（平成26年度より、事業所名：インクル大里）で事業所長となりました。また、平成18年に相談支援従事者研修を受講し、以降に各サービス管理責任者の資格を取得し、現在その任務にもあたっています。

## 次代の職員養成のため組織された グループメンバー時代

研修の意義や職員の育て方について一生懸命に考えた  
（職員研修の企画担当・後輩の指導）

## 現場の調整役としての役割

管理者をサポートする役割・職員からの相談窓口  
（指導的職員の役割）

## 生活介護事業所で事業所長

知識や技術の伝授だけではなく、職業人としての人間性を培っていく。  
（管理職の役割）

職業人として妥協することなく、問いを投げかけていきたい。（現在の課題）

